

第1回やくの高原活性化あり方検討会 議事録

開催日時：2024年9月12日 13時30分～16時

開催場所：福知山市役所 夜久野支所

出席者：下表のとおり

委員

氏名	所属
日和 英之	上夜久野自治会長会代表
足立 静雄	中夜久野自治会長会代表
上田 博康	下夜久野自治会長会代表
小田垣 裕一	夜久野みらいまちづくり協議会
衣川 伸二	夜久野みらいまちづくり協議会
衣川 裕次	夜久野みらいまちづくり協議会
木村 昭興	福知山公立大学 教授
足立 聖忠	福知山観光協会 副会長
坪倉 康孝	森の京都DMO 地域開発部長兼VRプロデューサー
村尾 俊道	WILLER TRAINS株式会社 沿線交通リデザインプロジェクトチーム (元京都府交通基盤整備推進監 NPO法人持続可能なまちと交通をめざす再生塾 理事長)
泉 真吾	京都銀行 公務・地域連携部 観光・地域活性化室長
居合 真志	市民公募委員
稲垣 江利子	市民公募委員
衣川 泰広	市民公募委員
松崎 沙弥加	市民公募委員

オブザーバー

氏名	所属
大西 民男	国土交通省近畿地方整備局福知山河川国道事務所長

福知山市

氏名	所属
山本 美幸	福知山市地域振興部長
森田 哲也	福知山市地域振興部理事
西野 肇	福知山市市長公室地域振興政策監
中島 美香	福知山市地域振興部夜久野支所長
井上 智行	福知山市地域振興部夜久野支所地域振興係長

■当日の内容について

大橋市長の挨拶により開会し、委員の自己紹介、正副委員長の選出、委員長の挨拶があった後、福知山市よりこれまでの経過説明とアンケート調査の結果報告をした後、委員からの質疑応答を実施。

その後、ファームガーデンやくのに移動し、各施設を見学。

■大橋市長あいさつ

皆さん、こんにちは。大変暑い日となりましたが、こうして第1回目となります「やくの高原活性化検討会」にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、この検討会について、自治会長の皆様方、あるいは未来まちづくり協議会の皆様方、そして市民公募の皆さん、有識者の皆様方には大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

合わせて、本日、ファームガーデンやくのが道の駅に指定されているということで、道の駅を管轄していただいている国土交通省の河川国道事務所長の大西様にもご同席をいただいてオブザーバーとしてお世話になることになっており、どうぞよろしくお願いを申し上げます。さて、やくの高原につきましては様々な課題があり、現在多くの施設を休止しているところでございます。そういう中で、今年3月には、ドライブインが閉店をされるというような状況になりました。これら今日までの経過については後ほどご説明を申し上げるというように思いますが、その経過を踏まえた中でも、この夜久野高原について、私はどうあってもぜひ再構築をしていきたいという思いでこの検討会をお願いしているところでございます。夜久野には様々な資源がございます。夜久野町の皆さん方にとっては、それぞれやはり思い出を持った資源であろうかというように思います。

そういうことをぜひしっかり生かして、再び夜久野高原に賑わいを取り戻してまいりたいというように思い、一方で、例えば国道9号の通過交通が減ってきたということもございます。農匠の郷の立地位置につきましては、国道から入ってきたところということで、なかなかわかりにくいという問題もございます。様々な課題も、それぞれの施設を設置された時期から今日まで変遷してきた部分も含めてであろうかと思いますが、そういう中で、やはり賑わいを取り戻していくということは、人に来ていただくということも含んでおります。そのためには、やはり、あそこにあれがあるから行くかというように思っただけの施設にならなければ賑わいは取り戻していけないのではないかというように思っているところでございます。また、合わせて今回再構築をしていく施設については、この夜久野町の皆さん方にも愛していただけのような、大事に思っただけのような、そういう施設にしていきたいというように思っており、地域の皆さん方の忌憚のないご意見をいただければ大変ありがたいというように

思っているところでございます。

従前の発想ではない新しい発想を持って、次の時代に向かって、この夜久野にある農匠の郷を中心とした夜久野高原一帯に、しっかりと活力を取り戻していけるよう、私自身も先頭になって頑張っていきたいというように思っておりますので、どうぞ、先ほども申し上げましたが、皆さん方の忌憚のないご意見をいただきながら、建設的な話ができ、そして前に進んでいけるように、皆さんと一緒に頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

大変お世話になります、どうぞよろしくお願い申し上げます。

■委員長あいさつ

夜久野高原活性化ということで、私はものすごく重要なかなり難しい問題かと思っております。

夜久野地区、人口減少がかなり激しいです。何もしなければすぐ消滅する。ここで皆さんの力で何かをしなければ衰退していくと考えています。この活性化の検討は、白紙の状態から始まると聞いております。皆さんの積極的なご意見をいただけたらと思います。皆さんのご意見、ご協力をよろしくお願いいたします。

■質疑応答

<委員>

現在処分制限の規制がある部分について国と交渉していけば変更が可能なのか、もう絶対ダメなのかその辺を教えてください。

<事務局>

処分制限がある施設につきましては、当初の目的以外で使う場合には、国に対してこういう形で使いたいという報告をさせていただき、その内容が国に通れば処分をしていくことは可能です。ちなみに、ここに書いてあります補助金返還額については、今年度末での数字であることをご了承ください。

<委員>

夜久野荘が開業したのは平成11年ということですので25年ほど経っているが、この間に大規模な設備投資の改修とそういったものはされてきた経緯があるのか。

<事務局>

まず、ファームガーデンができた時に、元々は、この夜久野荘だけで、宿泊と、お風呂もあり、食事もできる施設であったものを、ファームガーデンの中に温泉ができ、レストランができた関係で、夜久野荘の厨房部分と、温泉部分をなくしたというのが、まず、最初にあります。それ以降に、温泉が10時までしか使えないということもあったので、お部屋で、遅い時間に、お風呂に入りたい方がいらっしゃるとい

ことで、2階の和室に、ユニットバスをつけたということがあります。

さらに平成25年に、洋室のニーズがあるということで、1階に2部屋ほど洋室を作ったという改修をしましてまいりました

<委員>

全体の経費で、実際売り上げで賄った分と、福知山市の費用が入っているもの、総額費用は出ているが、明細というか、人件費がすごいのか、温泉の燃料費が実はどれぐらいかかっているのか細かい明細、固定の部分と変動の部分も知りたい。あと、全体の来場者数のグラフはありましたが、コロナ前の直近のデータや、来場者の性質というか、レストランが多かったのか、温泉が多かったのか、夜久野荘の宿泊施設がどの時期（季節）が多かったのかという時期的な性質のデータがもう少しあると、本当にこの夜久野に対する市民の方の需要プラス外から来られる方の需要がどんなふうにあったのかを知りたい。

<事務局>

本日その部分の資料が用意できておりませんので、正確なところは次回にまた提示させていただきたいと思いますが、先ほどおっしゃっていただいた全体の経費の中で温泉の運営の部分に1番コストがかかっていました。灯油を燃やしてお湯を沸かすという形の温泉ですが、その燃料代がかかっていたということでございます。コロナ後の状況ですが、ちょうどコロナに入る前から休館になってしまっているの、その後と言っても、もう実際に空いていたのが高原市だけというような形なので、ちょっと最近の数値ではどの時期にお客さんが多かったかというのはなかなか言えないのですが、ただ、オープンしていた、指定管理で空いていたところで言うと、夜久野荘のご利用が多かったのは、工事等の関係者の方が泊まってらっしゃったことが多かったと聞いておりますので、夏休みだからということではないという風に聞いております。

<委員>

コロナ前の最後の方の2、3年が知れたら、コロナ後でその数字自体は性質変わっている可能性はありますが、最新の営業していた時の数値から何か分かるのではないかと思います。

<事務局>

次回にまたお示しをさせていただきたいと思います。

<委員>

この検討会の大きな枠組みというか落としどころというか、最終的にいつ頃までにこういう風にするというようなことが決まっているのかどうかという点と、プロポー

ザルを行った調査支援業務の結果との関係で、この検討会もその業者さんが入られるという話も聞いておりましたので、教えていただければありがたい。

<事務局>

今年度、3月末までに全体で5回程度の検討会を行って、今後の方向性を示したプラン案を皆さんに使っていただくというスケジュールにしております。その出来上がりましたプランを基に市で改めて来年度プランを策定し、それに基づいて予算措置等の動きを取っていきたいという風に思っております。

それと、コンサルの業務についてですが、先日、プロポーザルを実施しまして、優先交渉権者となられる事業者を選定させていただきました。今、本契約に向けての事務手続き中でございます。コンサルには2回目以降この検討会に加わっていただきたいという風に思っております。

<委員>

施設が休館となった後にトライアル及びサウンディングと、3年間ぐらい行われていると思います。その間でこういった施設が実際に運営を試されたのか、それからどんな風な案が出たのか、それから最終的にはトライアル及びサウンディングをした結果、どのような評価をされているのか、お聞きしたいと思います。

<事務局>

この間行ってまいりましたサウンディングにおいては、このファームガーデンの施設全体をどう活用するかということを前提に行ってまいりました。トライアルサウンディングにつきましては、3か月、3か月、合計6か月実施をされましたが、それは外の施設を使ったキャンプ事業となっております。実際に建物を使ったトライアルってというのは提案がございませんでした。

トライアルってというのは、実際にその建物やその施設を使って実際に運営をしながらその活用の可能性を探っていただくというものです。そうではなくて、こんな風な活用だったらできるのではないかとご提案いただくサウンディングにつきましては、温泉施設であるとか夜久野荘の宿泊施設、それから本陣のレストランの施設を使ってキャンプ事業もしながら、それらの施設をうまく活用して経営をしていきたいというようなご提案をいただき、あと、同じ宿泊でも、どちらかというと少し健康増進につながるような宿泊客の呼び込みをして活用していきたいというようなご提案をいただいた。中には温泉を使った養殖というようなご提案もあったりはしましたが、基本的には、温泉を活用しながら宿泊のお客様を呼ぶというようなご提案をされました。それらのサウンディングの結果を踏まえて、民間事業者のニーズがあるサウンディングに参加をいただきました事業者さんとその後の、追加対話をする中でも、市が当初の助走期間だけ支援をすることで民間の事業者に運営していただける可能性があるという感触を持ったことから、昨年度、指定管理と事業者の民間提案募集とい

う形を取らせていただきましたが、最終的に手が上がらなかったという結果になってございます。最後までいろんな対応していただいた事業者さんに、最終なぜ手を挙げてもらえなかったのかっていうところを確認させていただいたところ、やはりコロナ禍以降、物価高騰、燃料費の高騰等の関係で、温泉というものを民間事業者で運営するという、そこがやはりどうしても黒字化するところが難しいと判断をしたために手を挙げなかったということをおっしゃいましたので、市としても、なかなか民間事業者さんに今のままで温泉を運営してもらうのは難しいのかなということが改めてわかった次第でございます。

<委員>

今回の着地点としては、制限がある部分はその通りに使ったの全体活用が前提条件なのか、一部でも自走し始めるような仕組みや、活用できるような流れも1つとしてあり得るのか。

<事務局>

今回の検討会の中では、例えば一部から始めて広げていくのがいいのか、全部を活用してもらえるところを探して行ってやってもらうのがいいのか、施設をこのまま使うのがいいのか、新しくその民間さんが建ててやってもらうのがいいのか、その辺りも含めて、全て白紙の状態で検討いただきたいという風に思っております。

<委員>

アンケートをしていただいておりますが、こちらは域内の皆さんのアンケート調査ということですので、もしあれば施設が稼働していた時に、来られたお客さんに、何かアンケートみたいなもの取られてなかったのか、良し悪しみたいなところを伺うようなアンケートっていうのはなかったのでしょうか。

<事務局>

今把握している中では、そういうアンケートを取ったというのは把握してございません。

<委員>

あと、実際来られたお客様が域内のお客さんが使われていたのか、それとも外から来られていたのかという利用者数のデータですとか施設ごとの事業収支のデータですとかを教えてくださいたい。

<事務局>

確認してわかる範囲で次回またお示ししたいと思います。

<委員>

入込客の中で、このデータは総数としてはわかるけれど、どの地方、どの地域から来ているかというようなデータがないでしょうか。あと、福知山市内でも、旧市内なのか旧町からなのか、地元が中心なのか、京阪神から来ているのか、あるいは京丹後市に抜ける途中で寄っているのか、これまでのお客さんとその国道9号との関係で少し見えてくるようなデータがあればありがたいです。

<事務局>

指定管理で運営をお世話になっていた、その指定管理者事業者から出ている資料の中には、そういったデータは見当たらない状況です。ただ、聞き取りで聞いているのは、例えば温泉であれば地元の地域の方のご利用は少なかったと聞いている。そこは体感で言ってらっしゃるので実際のデータとは言えないかもしれませんが、そういうようなお話は聞かせていただいております。

<委員>

同じ福知山の三和町の方の施設をこの前開始をされて、随分綺麗にされてリスタートをされていると思いますが、その時もいろんな議論があったと思う。本当に域外からの集客を考えるのか、近いところからのお客様をイメージしたのかとか、聞いているところでは、例えば、スポーツの合宿とかっていうのをもうメインターゲットにしましょうということで、それに使いやすいような改装されたようなことお聞きをしていますので、全く同じかどうかわかりませんが1つの参考になるかと思います。おそらくその時に、どのようなお客様をイメージするか、どのような使われ方をイメージするかってというのは随分議論をされたと聞いていますので、できれば参考にそういうのもお示しいただけたらありがたいかなという風に思います。質問というよりもお願いでございます。

<委員>

先ほど、白紙の状態と言われましたが、イメージとして、この施設全図の黄色のところにある施設を活用しているイメージがありました。この白紙の白い部の林野や、今お貸しされている緑の部分であったりというところを色々活用して、何らかのものをそこに作るとかいろんなことをしていく中で、その周りにも活用の改善ができるような考え方を提案するっていうのも、新しいものを作るのもいいのかというところを聞きしたいです。

<事務局>

白紙の状態でというのはそういう意味合いも含んでおります。ただ、実際にお貸しをしておりますので、その代替をどうするかとか、もしそこも使うということになった時には、その代替で今借りていらっしゃる方にはどうするかっていうところも含めて議論をしていただくことにはなると思います。

<委員>

アンケートを見させていただきますと、やっぱり温泉の利用というところがどこを見ても多いですし、それから再開するなら温泉を再開してほしいという意見がある中で、先ほど手を挙げてもらえなかった業者から温泉の運営は黒字が見えないという風におっしゃいましたが、その黒字が見えないっていうのは、もちろんお客さんが減ったっていうこともあると思いますが、そのランニングコストとか設備とかの細かいところで、事業者さんの黒字が見えないって言われた、そのところっていうのが原因とかっていうのはわかりますか。

<事務局>

まず1つ目として、今のままの施設でいくと大変コストがかかるボイラーや施設であるということが原因となっています。なので、例えばボイラーを全然違うコストの低いものに変えたらどうなのかっていう、そのところは提案いただいた事業者さんも、ボイラー更新っていうのもまだなかなか設備投資があるので、そこはちょっと検討されずに無理だという風におっしゃっております。

今後考えていく際には、じゃあ温泉を残すのであればどんな形の温泉を残したか、きちんとこの先も赤字にならずに残していけるかっていうところも考えていただきたいと思っています。

<委員>

開発というか検討の範囲の話に触れてはすけども、タイトルがやくの高原活性化という夜久野高原と名前がついていまして、ファームガーデンやくのというスタートではないところを見ると、もう少し広い範囲で考えてもいいのかなというイメージがあります。先ほどから、例えばドライブインの閉店ですとかそういったことからすると、あの周辺あたり、いわゆる高原一体というところを視野に入れてもいいのかなどうか、その辺はどういう方針でしょうか。

<事務局>

先ほど事務局からの説明の中でも、夜久野高原にはこんな資源がありますというようなことも少しお話をさせていただきました通り、ファームガーデンをどうするかだけではなく、活性化するために、夜久野高原にある資源をどう活用していくのかという観点で全体を検討していただきたいという風に思っております。

ドライブインにつきましては、民地ですので勝手なことはあんまり言えないにしても、例えば全体の検討の中で、ファームガーデンにこんなものを持ってきて、ドライブインのところには何か別の関係するようなものを持ってくれば両方で集客に繋がるのであれば、所有者の日和山観光さんにこんな提案を持っていったらどうかなというような話をすることはできるかなと思っております。

<委員>

これからどういう施設利用をされていくのかということを考える時に、観光という意味でいうならば、今のこの夜久野の管内をベースにしたような議論では意味がない。朝来市の観光地に立ち寄られる方がここに寄るかどうとか、観光という側面を考える時には、もう少し兵庫県側も含めたような地図を用意した中で、観光面については考える必要があるだろうという風に思います。

それから、日常生活の施設という風な捉え方をしていくのであれば、上夜久野の方々の日常生活の生活圏、こういったことを対象にしたような地図を用意する必要がきっとあるだろうという風に思います。和田山のイオンに普段行っている人たち、その人たちの生活の中でこの施設がどういう使われ方をしていくのかみたいなところからそれぞれの施設のありようというものをちょっと考えていく必要があるように思います。

お隣に行けば同じような温浴施設がいくつもあると、そういう状況の中でこの施設をどういう位置付けにしていくのかということを考える必要があると思いますので、ほんのちょっと先に、兵庫県側ではコミュニティバスが、朝来側からやってきている、でも夜久野のバスは県境を超えられない。

こんなところを少しつなぐだけでももっともっと広い意味で生活圏が広がっていく。それから、この施設を使うということを考えた時に、交通手段をセットで考えないといけないという問題だと思います。歩いていけるような範囲にお住まいの方々がお使いになるわけではありませんので、じゃあ交通手段と建物と、それを合わせてどういう風に考えていくために観光ってということを考えた時の地図、こういったものをぜひご用意いただいて、次回以降議論していただくのがいいのではないかとこの風に思います。

<委員長>

今日資料を見ていただいて、なかなか質問も出ないところもたくさんあるかと思うので、今委員さんがおっしゃったように、複雑な要因がありまして、経済圏域や生活とかいう、それとの視点があると思うので、今回、そのために支援業務ということで、コンサルってということもありました。そこで、どういう風にして発信していけるかっていうと、この現実的なところを元に検討を進めていかなければととらえています。市の方も、財源が限られている中で、おそらく住民の方がこう施設をどんどん利用していけば採算あるはず。ただ、現実的にどこまでできるか、それをコンサルのサポートをいただきながら、できるだけ皆さんのご意見を踏まえた上で作り込んでいかなければならない。

作ったものをすぐに閉めてしまう施設では意味がない。ですので、永続的に持続可

能な活性化というところを目指していなければならないと思いますので、今日いただきましたご意見を真摯に受け止めて進めていきたい。

また戻られてから質問等出てくると思います。ですので、それは積極的にご意見いただきながら、皆さんと一緒に作っていくというのは、多分おそらくこの検討委員会の趣旨かと思っておりますので、その点、ご協力よろしくおねがいします。

<事務局>

事務局の方から事務連絡ということで、今日、第1回目、お世話になったわけですが、第2回目の検討会の日程につきましては、ちょっと先になりますが、10月下旬から11月上旬頃を予定しております。また改めてご案内をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。それともう1点ですが、検討会の開催状況につきましては、自治会長様を通じまして、概要報告という形で、夜久野町内の方には進捗状況を含めてお伝えしていきたいと思っておりますので、その点も併せてよろしくお願いいたします。

■副委員長あいさつ

短時間でありましたけども、本当に様々な角度からたくさんのご意見が出たかと思えます。

こうした議論を重ねながらですね、さらにブラッシュアップをしながら、より良いものにしていきたいという風に思います。

次回以降につきましては、検討する上での必要な材料につきましても精査していただき、お示しいただいた上でお話を進めさせていただければという風に思います。次回もどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。